

○地域・社会貢献研究

研究課題 「うつ症状の早期発見と早期治療 味覚を指標とした判定法の検討と鍼治療の効果について」

○研究代表者 医科学センター助教石山すみれ

○研究分担者 医科学センター教授 河野豊 / 医科学センター教授 井出政行 / 作業療法学科准教授 石井大典 / 人間科学センター准教授 倉本尚美 / 茨城大学農学部教授 豊田淳 / 茨城大学農学部助教 吉田悠太 / 筑波技術大学保健科学部教授 鮎澤聡 (7名)

○研究年度 令和 5 年度

(研究期間) 令和5年度～令和7年度(3年間)

1. 研究目的

本研究では、以下の二点を行う。第一に、うつ病モデルマウスに対し、百会に円皮鍼治療を行い、味覚嗜好性の変化を検討する。第二に、健常者・抑うつ病患者を対象に味覚閾値と不安・抑うつを示すスコア、東洋医学的スコアとの関連について調査する。

2. 研究方法

<臨床研究1:健常者群>

対象：健常者

除外基準：精神疾患の既往のあるもの、喫煙、妊娠、貧血の加療中である。

介入方法：

- ① 計測開始2時間前より飲水・飲食を制限する。
- ② 問診票、HADS、五臓スコアの記入を行い、唾液アミラーゼ測定、ソルセイブを用いた味覚閾値を計測する。

<臨床研究2:疾患群>

対象：心療内科通院中患者13名（男性9名、女性4名）

除外基準：喫煙、妊娠、貧血の加療中である。

介入方法：

- ① 計測開始2時間前より飲水・飲食を制限する。
- ② 問診票、HADS、SDS、五臓スコアの記入を行い、唾液アミラーゼ測定、ソルセイブを用いた味覚閾値を計測する。

<基礎研究>：研究分担者である吉田、豊田が行う。

基礎研究用の消耗品費を茨城大学へ委託し、研究を進める。事前介入として、鍼をつけた状態でストレス刺激を与え、ストレスモデルマウスの鍼刺激への影響について検討する。

事前介入後、本実験（コントロール、コントロール+鍼、ストレスモデル、ストレスモデル+鍼）に入る。10日間かけてストレス刺激を与え、行動実験を行いストレスモデルが確立されているか検討したのち頭頂部へ鍼を貼り付ける。2日後に行動実験及び塩味嗜好性について検討を行う。

3. 研究結果

<臨床研究1:健常者群>

解析対象：健常者43名（男性28名、女性15名）

- ・平均味覚閾値は 0.28 ± 0.9 、HADSは 8.4 ± 4.7 であった。

- ・HADSと味覚閾値との相関解析では $r=-0.26$ であった。
- ・唾液アミラーゼ値と味覚閾値との相関解析では $r=-0.26$ であった。

<臨床研究2：疾患群>

対象：心療内科通院中患者13名（男性9名、女性4名）

- ・平均味覚閾値は 0.29 ± 0.3 、HADSは 13.7 ± 7.3 であった。
- ・HADSと味覚閾値との相関解析では $r=0.64$ であった。
- ・唾液アミラーゼ値と味覚閾値との相関解析では $r=-0.05$ であった。

4. 考察(結論)

ヒトを対象とした研究では、健常者では味覚閾値と不安・抑うつスコアを示す評価表との相関は認められなかったが、疾患群では正の相関を認めた。来年度以降も症例を集積して検討予定である。

基礎研究は現在、介入を行っており、来年度にはデータがまとめられる予定である。

5. 成果の発表(学会・論文等, 予定を含む)

学会発表予定

- ・2024年度日本味と匂学会第58回大会, 2024年9月11～13日, 岡山大学津島キャンパス

6. 参考文献

なし